

大高定時便



第二学期 始まる



八月二十六日(水)に第二学期の始業式が本館5階の視聴覚室で行われました。猛暑の影響でエアコンが効く部屋での実施でした。

原 昌紀校長からは「凡事徹底」と「自ら気づき、主体的に動くこと」についての話がありました。企業が求めているものは技能や技術ではない。あいさつや返事などが、きちんとできる人である。また、指示待ちではなく、周りを見て気づき、自ら動けるように、人間性を磨いて欲しいと訓示がありました。

平和学習



八月九日(日)に平和学習を行いました。大村市松原地区は原爆による被爆者が救護列車で運ばれ、その救護活動で、原爆の惨状の一端に触れたという歴史があります。そこで今年の平和集会は「松原の救護列車を伝える会」の方々を招いての、朗読劇や座談会を計画していました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、来校いただけず急ぎよ伝える会が作成したDVDの放映となりました。生徒たちはいつにも増して食い入るように熱心に視聴していました。

その後、感想文と「私の平和人権宣言」を書き、最後に生徒会による平和人権宣言がありました。身近な事から平和について考える良い機会となり、平和の大切さ命の尊さを改めて学びました。

平和人権宣言

一九四五年八月九日十一時二分広島に続いて二つ目の原子爆弾が、長崎の地に投下されました。

遠く離れた大村からも閃光や爆音、爆風、キノコ雲が確認されるほど大きな破壊力を持った原爆は、一瞬にして人々を焼き尽くし、生活の場を瓦礫に変えてしまいました。

髪の毛を焼失した人、皮膚が焼け、はがれ落ちた人、やけどで体のはれ上がった人、背中にガラスが刺さっている人……。大村の海軍病院に運び込まれた被爆者を目の当たりにした人たちは、原爆の被害のすさまじさに言葉を失ったそうです。

被爆者の方々は放射線障害などで今なお苦しんでいらっしゃる、原爆の被害は七十五年経った現在も続いています。

このような痛ましい歴史がありながら、人類は一万三千発もの核弾頭を保有し、朝鮮戦争やキューバ危機、ハトナム戦争、湾岸戦争、クリミア併合などで、その使用を検討したと言われています。

昨今、アメリカ力は、機動性が高く爆発力の小さな新型核兵器、いわゆる使いやすい核兵器の開発に着手し、サイバー攻撃などに対しても核兵器で報復する場合があります。また、昨年八月には、米口間で締結されていた中距離核戦力全廃条約が失効し、今年二月には新型核兵器が米軍の潜水艦に配備されました。核保有大国である米口の軌轢、米中貿易摩擦の長期化、アメリカとイランの対立の深刻化などにより、核戦争のリスクは次第に高まってきているのが現状です。

世界の情勢が混乱をきわめる中、核兵器廃絶への取り組みはますます重要になってきています。そして、世界で唯一の被爆国である日本には、それを推し進める責務があります。戦後の日本国民は、原爆の悲惨な体験を世界の国々に発信し、平和の尊さを訴えてきました。この大村市でも、被爆の体験を風化させまいと、被爆者の救護にあたった方の証言を掘り起こし、次世代に語り継ごうとする活動が行われています。

しかし、二〇一七年に国連で採択された核兵器禁止条約を日本政府が批准しなかったため、これまでに築き上げてきた平和国家としての信頼は揺らぎつつあります。

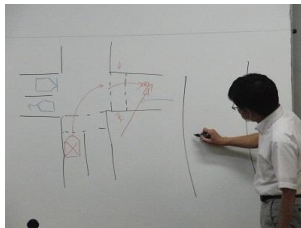
今、日本に求められているのは、一貫して核兵器を拒絶しようとする姿勢です。私たちが大村高校定時制の生徒は平和を希求する長崎県民として、核や戦争、命の尊さについて学び、絶えず核廃絶の声をあげることが誓い、これを平和人権宣言とします。

令和二年八月九日

大村高等学校 定時制 生徒会

二輪車講習会・交通講話

九月十八日(金)に二輪車講習会が太陽教習所で行われ、九名の生徒が参加しました。最初にビデオ視聴を交えながら安全運転についての説明やスラローム、急制動などの練習を行いました。同じ日に交通講話も視聴覚室で行われました。講師は大村警察署交通課の土井保享様で、自転車での走行やルール、注意すべき事項についてお話がありました。



DV防止講話

九月四日(金)にNPO法人 DV防止ながさき 小松由美子様をお招きして「対等な関係をつくるために」をテーマに講話をしていただきました。ロールプレイを交えながら、対等な関係や様々な暴力について考え、望ましい人間関係の構築について学びました。



長崎県高等学校定時制 通信制生活体験発表大会

九月二十七日(日) 県立長崎工業高等学校において令和二年度長崎県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が行われました。各校の代表者十五名が不登校・アルバイト・いじめなどの体験を元に、自分の思いをスピーチで披露しました。

審査委員長は日本放送協会(NHK)長崎放送局副局長 工藤隆宏 様で、他六名の方が審査に当たりました。最優秀賞は佐世保中央高校定時制夜間部三年若松葉瑠奈さん、同校通信制二年碓屋美慈さん、同校通信制三年植村信子さんの三名が選ばれ、若松さんは十一月に行われる全国大会の作文審査に選出されました。

大村高校定時制の代表として参加した三年川原慶翔君は、落ち着いて堂々と力強く発表し、優秀賞を頂きました。

川原君からは「三年間の想いをまとめた内容で、緊張したけど自分の言葉で、気持ちよく発表することができました。他校の発表内容もすごく良くて、深く考えさせられた所がたくさんあり、とても良い経験でした」との感想がありました。上位三名には入れませんでした。この貴重な体験は、今後の人生に必ず役に立つと思いますので、これからも前向きに頑張りたいと思います。



アメリカからお礼状が届く

七月豪雨災害の被災者、志賀江美智子(しがえ みちこ)様の長男 慶昌(よしあき)様より、定時制に感謝のお手紙が届きました。慶昌様は現在三十九才。アメリカ合衆国ラスベガス ハンターソンという町に在住で、医療関係の装置開発エンジニアとして、活躍されています。西大村小学校・西大村中学校・青雲高校・大阪大学をご卒業されたということでした。以下、お礼状を紹介します。志賀江様にはご了解を頂いております。

大村高校 定時制の皆様へ

突然のお手紙を失礼します。七月の大雨にて被災した中岳にて、皆様ボランティアに来ていただいた、志賀江美智子の息子の志賀江慶昌と申します。

インターネットのニュースで大雨のことを見て、実家に連絡したところ、実家の家は大丈夫と聞いて安心しておりました。その後、菅瀬(中岳)の祖父の家が大変な被害を受けていると妹から聞き、送られてきた写真から被害のすごさに言葉を失いました。

祖父の家は私にとっても、子供の頃から夏休みを祖父と過ごしたり、お盆には親戚が集まったりして従妹どうして花火をしたり、沢で遊んだりと思いの深い場所です。

両親と親戚、そして妹とで復旧作業にかかっておりましたが、とても量のない量の土砂、岩石の量にも母も途方に暮れておりました。

長男として僕も手伝いに駆け付けたのですが、海外に住んでいて、コロナ禍のせいで、帰国も難しく、戻れたとしても、国内移動さえもままならないようで、励ましの言葉をかけることしかできない状況に申し訳なさと悔しさを感じておりました。

そんな中、皆様ボランティアに来ていただいたと聞きました。母も大変感謝しておりました。心が折れてしまいそうな時に皆様に助けて頂

けたのは、復旧作業の面だけではなく、気持ちの面でも、もうひと踏ん張り頑張ろうという元気を分けて頂けたのではないかと思います。

家族を代表してお礼申し上げます。本当にありがとうございました。併せて、お手紙が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

コロナ禍の中、普段とは違う夏をお過ごしと思います。また世界的に猛暑のようです。皆様お体をくれぐれもご自愛下さいませ。

志賀江 慶昌

もみじ祭実行委員会

十月のもみじ祭に向け実行委員会が行われました。各クラスの代表の中から、実行委員長に四年生の竹本大介さんが選ばれました。また、今年のテーマは「もみじ祭しか勝たん」に決まりました。みんなで協力しながら準備をしっかりと、もみじ祭を盛り上げましょう。



つぶやき

初めて定時制通信制の生活体験発表大会に参加した。多くの発表は中学校時、不登校で般に閉じこもっていた。あることがきっかけで、ある人の一言で自分が変わり、般を破り、定時制や通信制で学ぶ喜びを知り、学校が楽しく、今の学校で良かった、未来の夢に向かって頑張っているという内容で、どれも素晴らしい。

人気俳優の竹内結子さんが急逝した。八月には俳優の三浦春馬さんが五月にはSNSによる誹謗ひぼう中傷が原因といわれているプロレスラーの木村花さんが……。

我々は、何も分からず色々憶測や推測で語れないが、何か違う選択はなかったかと考えさせられ、やるせない気持ちになった。

何かのきっかけで、誰かの一言で助けられることもあるし、傷つくこともある。

何かのきっかけが、全てうまく作用するとは思わないが、困っている人がいたら、その人に向き合い、寄り添い、悩みを聞く。それだけでも心の重しが軽くなり助けになる。そう信じて、これからも生徒たちに声をかけ、前に進んで行きたい。

今後の日程

- 十月 八日(木)〜十三日(火) 中間者査
- 十四日(水) 答案返却
- 十五日(木)〜二十七日(火) 短縮授業
- 二十 日(火) 通知表発送
- 二十八日(水) もみじ祭予行
- 二十九日(木) 会場設営
- 三十 日(金) もみじ祭